

高等学校 外国語科(英語) 学習指導案

指導者 久松 功周

日 時 平成 29 年 10 月 14 日(土) 第1限 9:30~10:20

場 所 第1 研修室

学年・組 高等学校Ⅱ年 5 組 40 人 (男子 24 人 女子 16 人)

単 元 Lesson 6 Just My Type by Simon Garfield
UNICORN English Communication 2 (文英堂)

- 目 標**
1. 書くときに、表現方法を工夫するなどして、効果的に伝えようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
 2. 読み手や目的などを踏まえて相手に効果的に伝わるアドバイスを書く。(外国語表現の能力)
 3. 主題を表す内容に着目して、本文の要点を理解する。(外国語理解の能力)

指導計画 (全 5 時間)

第一次 本文内容の理解 4 時間

第二次 英作文 1 時間 (本時 1/1)

授業について

本クラスでは、生徒が場面や目的などを踏まえ、相手に効果的に伝える工夫をして表現できるようになることを年間の指導目標として指導している。1 学期は、本文における筆者の主張を読み取り、具体例や理由付けなどの主張を支える内容との整合性を考えさせることで、批判的に文章を分析するための見方を生徒に獲得させることを試みた。2 学期のこれまでの指導においては、この見方をさらに発展させることを目的とし、教科書の本文内容や、身の回りの広告、CM などから、それらの伝える目的や、想定されている情報の受け手などを考えさせるという指導を行い、目的や想定されている情報の受け手に意識を向けるよう指導してきた。本単元の最終活動では、これまでに獲得してきた視点を活用して、伝える目的、読み手を踏まえて、より効果的に伝えられるように工夫をして表現することの指導を行う。

題 目 外国語科における見方・考え方を働かせた表現力育成の試み

本時の目標

1. 書くときに、表現方法を工夫するなどして、効果的に伝えようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
2. 読み手や目的などを踏まえて相手に効果的に伝わるアドバイスを書く。(外国語表現の能力)

本時の評価規準 (観点/方法)

1. 書くときに、表現方法を工夫するなどして、効果的に伝えようとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度 / 作品の観察)
2. 読み手や目的などを踏まえて相手に効果的に伝わるアドバイスを書ける。(外国語表現の能力 / 作品の評価)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
復習	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 6 の内容を口頭でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文のキーワードを用いて、内容をまとめさせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> CM を見て、その CM にこめられた制作者の意図を分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的・視聴者・状況という観点で分析させる。
英作文	<ul style="list-style-type: none"> 中学校 2 年生のアドバイスという場面において、アドバイスをする上でのポイントを考える。 ポイントを踏まえた表現の工夫を考えて、文章を書く。 グループで読み合って、効果的だと判断した理由を述べ合う。 グループの中で最も効果的であるという英作文を 1 つ決める。 	<ul style="list-style-type: none"> モデルを示し、そのモデルの良い点、悪い点を考える。
まとめ		
備考		

○以下のアドバイスを以下の観点から分析しましょう。

You say you don't like most school subjects, but that doesn't mean you don't need to study them. You need to study to cultivate your mind and train your brain. School education helps you become a capable person. Decide which subjects you are good at, not just what you like, and concentrate on them. Learning will guide you to be successful in your future career.

なぜ (動機・必要性・目的)	The purpose of this advice is _____ _____
誰に	The 2 nd grader of junior high school student is supposed to be the reader.
どのように (どんな印象を与えるか)	This advice was created so that <u>the viewers feel it (surprising / interesting / persuasive / encouraging / funny / innovative / creative / その他())</u> ↑当てはまると感じたものに○

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業は、教科特有の見方・考え方を生徒に身につけさせることを目的とした授業である。外国語科において、見方・考え方を働かせるということは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」と定義されている。本授業においては、定義を「表現をするにあたって、目的・場面・状況・相手といったコミュニケーションにおける条件を勘案することで、表現内容を生成、整理し、その内容をよりよく相手に伝える表現内容や方法を考え、目的の達成を目指すこと」と再定義し、実践を行った。

2. 研究協議より

- ・教科特有の見方・考え方が具現化された授業であったように思う。
- ・目的、相手、方法という思考ツールを英語の中で使う指導になっていた。
- ・本授業で示された思考ツールは、英語科以外の場面でも用いることが可能であると感じた。
- ・1時間の授業の中に活動を盛り込みすぎたのではないか。
- ・表現方法を工夫して書いた生徒の作品の評価方法として想定しているものは何か。
→本授業が主眼としていることは、絶対的な規準に基づいて書く、いわゆる正しい英作文を期待した授業ではなく、様々な条件を勘案しながら、その条件を適切に満たしている作文を書く指導であり、その適切さを決める規準は人によって様々である。したがって、教員一人の規準によってその善し悪しを判断するのではなく、生徒も含めた大人数の規準によって、「効果的な表現が用いられていると多くの人が考える作品」を選ぶことで、生徒の動機付けを行ったり、良いモデルを示したりすることを目的とした評価としては十分機能するのではないだろうか。ただし、入試などの選抜を目的とした、公平性及びそれに伴う一定の絶対的規準が求められる評価については、その方法について議論の余地が残る。